

平成 29 年度 文部科学省事業
地域学校協働活動の効果推進のための普及啓発方法等についての実証的な調査研究

全国フォーラム 事業報告書

平成 30 年 3 月 15 日

株式会社キャリアリンク

《目次》

1) 地域学校協働活動の効果的な推進のための普及啓発方法等についての実証的な調査研究	
1. 要項	P. 1
2. 全体総括	P. 2
3. 各地区実施報告	
・ 地域学校協働活動推進フォーラム in 淡路	P. 4
・ 地域学校協働活動推進フォーラム in 南国市	P. 12
・ 地域学校協働活動推進フォーラム in 戸田	P. 21

1. 要項

1. 主旨

地域学校協働活動の効果的推進のための普及啓発方法等についての実証的な調査研究として、**地域学校協働活動の推進のための普及啓発方法のモデルを示す全国フォーラム**を開催。3地域の内1地域においては、放課後子供教室と放課後児童クラブとの一体型の取組普及・推進となるフォーラムとした。

2. 概要

参加者の目的に応じ、事例発表やパネルディスカッション、ワークショップ等を取り入れて構成。詳細は以下の通りである。

	①淡路フォーラム	②南国市フォーラム	③戸田フォーラム
日時	2017年12月2日(土) 13:30～16:45	2018年1月28日(日) 13:30～16:45	2018年2月3日(土) 9:20～16:00
会場	南あわじ市役所	南国市立稲生小学校	戸田市立戸田第一小学校
協力	兵庫県教育委員会 南あわじ市教育委員会 洲本市教育委員会 淡路市教育委員会	高知県教育委員会 南国市教育委員会 香美市教育委員会 高知大学 地域協働学部	埼玉県教育委員会 戸田市子ども青少年部 戸田市教育委員会
参加人数	104名	148名	第一部：児童106名 第二部：128名
第一部	<p>【事例発表】</p> <p>① <u>南あわじ市</u>：地域の伝統（だんじり唄、人形浄瑠璃）を継承～地域と学校これからの一歩～</p> <p>② <u>洲本市</u>：学校支援から地域協働へつなぐ地域コーディネーターの役割～地域社会全体で子供たちを育てる『鮎っ子ふるさとタイム』を通じて～</p> <p>③ <u>淡路市</u>：公民館と学校が協働した地域学校協働活動 真夏の子どもの日～学校を核とした健全育成活動の実践と広がり～</p>	<p>【事例発表】</p> <p>① <u>南国市</u>：学校支援から地域づくりへ！地域コミュニティの再構築をめざす“チーム稲生”の地域学校協働活動</p> <p>② <u>香美市</u>：よってたかって地域が育てる教育！香美市全中学校が参加する土曜授業キャリア・チャレンジデイの取組</p> <p>③ <u>四万十町</u>：地域創生をめざす高校とまちの協働による地域連携学習地域で活躍する“リーダー”の育成を目指す窪川高校の取組</p>	<p>【学習プログラム体験】</p> <p>* 地域住民の方及び企業・団体による放課後子供教室等で実施可能な特色ある学習プログラム：5プログラム実施</p> <p>① サクラソウをまもれ！！ 体感ゲーム</p> <p>② かんたん！ロボットプログラミング</p> <p>③ 日本舞踊ってなんだろう？</p> <p>④ デカキッズ「かけっこ教室」</p> <p>⑤ 将棋に挑戦</p>
第二部	<p>【パネルディスカッション】</p> <p>テーマ：「教育や地域課題の解決にむけた新たな教育の実現を通しての学校と地域の協働を考える」</p> <p>パネリスト 5名</p>	<p>【パネルディスカッション】</p> <p>テーマ：「地方創生にむけた新たな教育の実現による学校と地域の協働を考える」</p> <p>パネリスト 5名</p>	<p>【事例発表】</p> <p>① <u>小平市</u>：地域の力で、すべての子どもたちに放課後の豊かな居場所を</p> <p>② <u>新座市</u>：新座市子どもの放課後居場所づくり事業</p> <p>③ <u>戸田市</u>：戸田市 放課後子ども教室の取組みについて一体型の経緯と概要</p> <p>【ワークショップ】</p> <p>テーマ：「一体型取組みのキーとなる『連携』について考える」</p>

2. 全体総括

地域学校協働活動を推進している地域は年々増えており（平成 25 年度地域学校協働本部設置数が 3,527 から平成 29 年度 9 月時点では 5,168 と約 1.5 倍増）地域学校双方向の「連携・協働」の必要性や効果については理解が深まりつつある。しかしながら地域の特長や課題により連携・協働内容が異なることから、各地域では、“支援”から“連携・協働”につなげるための具体的な理解がまだ不十分という声が多くあがっている。また放課後子供教室と放課後児童クラブとの一体型の取組についても、各地域で試行錯誤の中、更なる普及・促進のためには、一体型取組の意義と成果の明確化、共有化が必要となっている。

今回の調査研究においては、全フォーラムに具体的な取組を紹介する事例発表を取り入れ、発信した。淡路フォーラム、南国フォーラム（高知県）では様々な「地域学校協働活動」が地域の実情に合わせて実施されており、

- 継続実施する中での課題とその対応策

- 継続実施する中で、支援からどのように地域協働を目指したか、

またはどのように相互理解と地域コミュニティの再構築につながってきたか

に焦点をあてた事例発表とし、参加者が地域協働のイメージをもてるよう実践モデル発表に、活動動画、関係者のインタビューを組み込んだ。また、第一部の事例発表により各地域での地域学校協働活動の様々な取組の共通理解を図った後、「支援から連携・協働」への変革を目指すためのカギを探ることを目的としたパネルディスカッションを行った。

戸田市では、放課後子供教室と放課後児童クラブとの一体型の取組における多様なプログラムの普及のヒントとなるよう、午前の部では、児童を対象に様々なテーマのプログラム体験を組み込んだ。午後の部では、事例発表で 3 地域それぞれの一体型取組の経緯から成果と課題を伝えた後、様々な立場の参加者がグループに分かれて意見を交わす「ワークショップ」を実施。自身が関わる側面から、一体型取組の現状の課題を共有し、グループで分析、解決策を話し合う中で、一体型取組を目指す目的の本質的理解が図られるよう工夫した。

- 地域学校協働活動推進フォーラム in 淡路

本フォーラムでは、南あわじ市教育委員会の積極的な協力を得て、淡路地域 3 市が連携して協議し、各地域の特徴を生かした異なる事例を取り上げた。南あわじ市は、長年継続して実施されている地域の伝統継承の取組を学校長の視点から、洲本市は地域コーディネーターの役割と特徴ある活動について地域コーディネーターの視点から、淡路市は地域と学校が行う公民館を核とした活動について、公民館館長の視点から、各事例動画を交え、取組、成果、課題を分かりやすく伝えていただいた。

第二部のパネルディスカッションでは、教育や地域課題の解決にむけた学校と地域の協働を考える構成とし、パネリストには、兵庫県教育委員会 社会教育課 副課長、南あわじ市 教育長、淡路市立東浦公民館 館長、洲本市 学校教育支援本部 地域コーディネーター、兵庫県教育大学大学院 学校教育研究科 准教授とそれぞれ立場の違う方々にご登壇いただき、既に長年地域と学校の関係性ができている中で、さらに未来に向けて地域と学校が協働していくためには両者が変わる必要があることと変わるものの効果について伝えていただいた。

- 地域学校協働活動推進フォーラム in 南国市

本フォーラムでは南国市教育委員会と南国市立稲生小学校の積極的な協力をいただいた。

第一部の事例発表では、高知県内の小・中・高と校種の異なる取組事例を取り上げた。小学校は、地域学校協働本部の取組として全国的にも有名な南国市立稲生小学校地域学校協働本部の取組を、地域学校協

働本部会長より発表をいただいた。中学校は香美市教育委員会より、市内全中学校が参加する土曜授業の取組を、高校は、四万十町営塾塾長より高校と町の協働による地域連携学習について伝えていただいた。

第二部のパネルディスカッションでは高知県教育委員会生涯学習課 課長、香美市教育委員会 教育長、南国市立稲生小学校 校長、高知県立窪川高等学校 校長、高知大学地域協働学部 教授の意見とともに2020年の学習指導要領の改訂による学校現場に求められる変革と関連づけながら、地域と学校が地方創生にむけた共通の理解を図る必要性や地域と学校が目標を共有することの重要性について確認することができた。

●地域学校協働活動推進フォーラム in 戸田

第一部では、放課後子供教室と放課後児童クラブとの一体型の取組として、児童を対象に、地域住民及び企業・団体に協力いただき、放課後子供教室等で実施可能な特色あるプログラム体験を実施。地域を問わず見学者を募りプログラムの意義と有効性を検証することができた。

第二部では、戸田市、新座市、小平市の一体型取組についての経緯、実績、成果、課題について、地域の状況にあわせた工夫がわかるよう具体的な事例発表を行った。その後のワークショップでは、参加128名中64名が戸田市以外からの参加という点を生かし、地域と属性を混合させたグループに分かれてのディスカッションを実施。

一体型取組のキーとなる「連携」について、地域や立場の違う参加者それぞれの実情の共有、今後の推進における課題やあるべき姿など、一体型取組連携推進の課題解決のヒントとなるワークショップを通じて、一体型取組の価値と必要性について確認することができた。

●淡路・南国市フォーラムの各アンケート結果から地域学校協働活動の理解と共に啓発推進を図ることができ、戸田フォーラムでは一体型の取組の有効性を理解いただくとともに課題解決のヒントを得る機会になったといえる。

【淡路・南国市アンケート】

Q：次世代の学校・地域創生に向けて、地域学校協働活動の必要性や、地域学校協働本部の有効性が理解できた。

⇒淡路 92%、南国市 94%の方が「とてもそう思う」「そう思う」と回答

Q：「学校支援」から、「地域連携・協働」へ変革・発展するイメージを持つことができた。

⇒淡路 92%、南国市 94%の方が「とてもそう思う」「そう思う」と回答

Q：今後、自分もできることから「地域学校協働活動」に参画・協力、または推進したいと思う。

⇒淡路 98%、南国市 95%の方が「とてもそう思う」「そう思う」と回答

戸田アンケートから事例発表とワークショップを通じて一体型の取組の必要性や有効性を理解いただけた。また放課後子ども総合プランの推進にあたって、より多くの理解や協力を得るための意見やアイデアが多数寄せられたことから、一体型の取組の普及・促進を引き続き行う上で重要な情報も得ることができたといえる。

【戸田フォーラムアンケート】

Q：今回のプログラムでよかった（参考になった）ものをお教えてください

⇒85%の方が「ワークショップ」を選択（複数回答可）

Q：「放課後子ども総合プラン」の必要性や取組の有効性を理解できた。

⇒86%の方が「とてもそう思う」「そう思う」と回答

以上のことから、3回のフォーラムを通して、本事業のねらいにそった成果が得られたといえる。

3. 地域学校協働活動推進フォーラム

■地域学校協働活動推進フォーラム in 淡路

【概要】

日時	2017年12月2日(土) 13:30~16:45	
会場	南あわじ市役所 〒656-0492 兵庫県南あわじ市市善光寺22番地1第2別館3階	
対象	104名	
目的	これまでの学校支援地域本部から地域学校協働本部への発展を目指す取組とはどのような活動なのか、何が違うのかを事例を通して理解すること、また、地域の伝統を守る活動を継続 して実施していくことのヒントや、地域学校協働活動で核となる地域コーディネーターの役割や機能の理解、公民館や社会教育施設の活動を核とした地域学校協働活動の事例と課題の共有を行うことを目的に実施。	
実施協力	兵庫県教育委員会、南あわじ市教育委員会、洲本市教育委員会、淡路市教育委員会	
	時間	内容
第1部	13:30~ 13:40	【挨拶・事業主旨説明】 文部科学省 生涯学習政策局 社会教育課 地域学校協働推進室 室長補佐 佐藤 貴大
	13:40~ 15:00	【事例発表】 映像3分+説明20分 事例① 地域の伝統(だんじり唄、人形浄瑠璃)を継承~地域と学校これからの一歩~ 南あわじ市立市小学校 学校長 山口 晶子氏 事例② 学校支援から地域協働へつなぐ地域コーディネーターの役割 ~地域社会全体で子供たちを育てる『鮎っ子 ふるさとタイム』を通じて~ 洲本市 学校支援地域本部 地域コーディネーター 喜住 英子氏 事例③ 公民館と学校が協働した地域学校協働活動 真夏の子どもの日 ~学校を核とした健全育成活動の実践と広がり~ 淡路市立東浦公民館 館長 安藤 浩司 氏
第2部	15:10~ 16:40	【パネルディスカッション】 「教育や地域課題の解決にむけた 新たな教育の実現を通しての学校と地域の協働を考える」 地域・学校の課題を解決する地域学校協働活動の現状を共有し、学校支援から地域協働へ、転換を目指す“カギ”を探り、教育や地域課題の解決にむけた新たな教育の実現を通しての学校と地域の協働を考える。 ●パネリスト ・南あわじ市 教育長 浅井 伸行氏 ・淡路市立東浦公民館 館長 安藤 浩司氏 ・兵庫県教育委員会 社会教育課 副課長 安東 靖貴氏 ・兵庫県教育大学大学院 学校教育研究科 准教授 上田 真弓氏 ・洲本市 学校教育支援本部 地域コーディネーター 喜住 英子氏 ●ファシリテーター 株式会社キャリアリンク 代表取締役 若江 眞紀
	16:40~ 16:45	【挨拶・アンケート記入依頼】

□会場の様子（写真）



挨拶・事業主旨説明



事例①

地域の伝統（だんじり唄、人形浄瑠璃）を継承～地域と学校これからの一歩～

事例②

学校支援から地域協働へつなぐ地域コーディネーターの役割～地域社会全体で子供たちを育てる『鮎っ子 ふるさとタイム』を通じて～

事例③

公民館と学校が協働した地域学校協働活動 真夏の子どもの日～学校を核とした健全育成活動の実践と広がり～

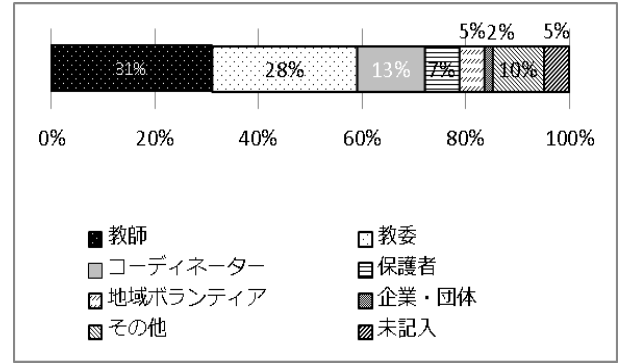


パネルディスカッション

□アンケート結果

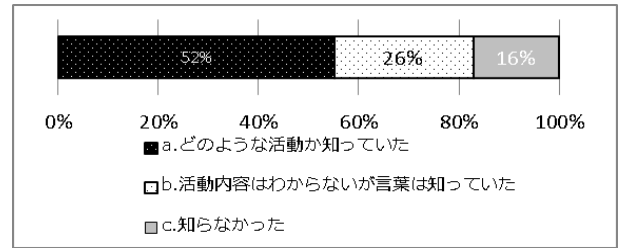
参加者の属性

回答	回答数	構成比
教師	19	31%
教委	17	28%
コーディネーター	8	13%
保護者	4	7%
地域ボランティア	3	5%
企業・団体	1	2%
その他	6	10%
未記入	3	5%
計	61	100%



1. 地域学校協働活動をご存じでしたか？

回答	回答数	構成比
a.どのような活動か知っていた	32	52%
b.活動内容はわからないが言葉は知っていた	16	26%
c.知らなかった	10	16%
未回答	3	5%
計	61	100%



■属性別内訳

回答	教委	教師	企業・団体	保護者	コーディネーター	地域ボランティア	その他	未回答	合計
a.どのような活動か知っていた	12	11	0	1	5	0	2	1	32
b.活動内容はわからないが言葉は知っていた	3	8	0	0	3	0	1	1	16
c.知らなかった	2	0	1	3	0	3	1	0	10
未回答	0	0	0	0	0	0	2	1	3

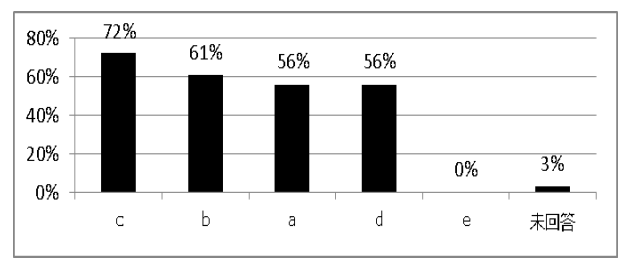
N=61

2. 本日のプログラムについて、ご意見をお聞かせください。

1) 今回のプログラムでよかった（参考になった）ものをお教えてください。（複数回答可）

■全体集計

回答	回答数	相対度数
c.事例紹介/真夏の子どもの日 ファイナル	44	72%
b.事例紹介/地域コーディネーターの役割	37	61%
a.事例紹介/だんじり唄、人形浄瑠璃	34	56%
d.パネルディスカッション	34	56%
e.その他	0	0%
未回答	2	3%



■属性別内訳

回答	教委	教師	企業・団体	保護者	コーディネーター	地域ボランティア	その他	未回答	合計
a.事例紹介/だんじり唄、人形浄瑠璃	11	12	1	2	2	1	4	1	34
b.事例紹介/地域コーディネーターの役割	10	16	1	2	3	1	2	2	37
c.事例紹介/真夏の子どもの日 ファイナル	13	15	1	4	4	2	4	1	44
d.パネルディスカッション	9	14	1	2	4	1	1	2	34
e.その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0
未回答	0	0	0	0	0	1	1	0	2

N=61

2) 上記で「よかった（参考になった）」とご回答の場合、そのうち1つについて、どういった点がよかった（参考になった）か、理由も一緒に教えてください。（自由記入）

【伝統芸能の継承】

- ・長年継続してきている点。
- ・伝統の継承は大事に感じていて、実行されていることに感激しました。
- ・続いているものには意味（よいところ）があることがよくわかりました。

【地域コーディネーターの役割】

- ・地域コーディネーターの役割が分かった。ゆるくできる範囲で地域の人に協力してもらおうとスタイルが一番継続すると思う。
- ・人とのつながり、コミュニケーション、ネットワークを広げる等、勉強になった。
- ・コーディネーターの役割を知りたかったので、具体的な動きが分かってよかった。
- ・地域コーディネーターを生かせば、確実に地域学校協働活動できると思った。
- ・活動について体系的な理解ができた。
- ・コーディネーターの役割がとてもよいと思った。
- ・地域のお年寄だけでなく、退職された先生方も協力して児童のためにたくさんの活動を計画、活性化させていく過程には、大いに興味がある。
- ・地域の人達との関わり。
- ・ふるさと先生の生きる活力になっている点
- ・ふるさと先生（学習）にみられる、教育課程内・外の教育活動の有効性。すばらしい取組です。
- ・ふるさと先生のインタビューで子どもと関わる機会が生きがいになっていると話された様子があり、すばらしいと感じた。
- ・休み時間を使った交流、教育課程を使った連携活動。おどろきました。

【公民館活動】

- ・東浦公民館長様の取り組みに興味を持った。面白い、大人も楽しむ、重要。
- ・中学生ボランティアの参加に感心した。
- ・「大人が本気でやる。子供以上に楽しむ」という発想がインパクトあり。「大人にも達成感があるから、続けられる」ということを再確認した。
- ・大人も本気で楽しむ（非日常）
- ・学校を活用して各年代の人が参加、楽しんでいる姿がすばらしい。
- ・スタッフが主体的にかかわっている点。
- ・脱出王は面白い！と思いました。うちの児童たちにもさせてあげたいです。・子供達がおもいきり楽しめる事が、自然に出来るといいなあと感じました。
- ・なかなかふつうではできない活動だから。
- ・子供が好きな事を思いきりやれる事がいい。
- ・地域活性化を全員で考えられる。学校支援から地域協働へつなげる方法など参考になった。

【パネルディスカッション】

- ・地域協働の視点がいろいろもて、とても参考になった。
- ・学校教育と社会教育の連携

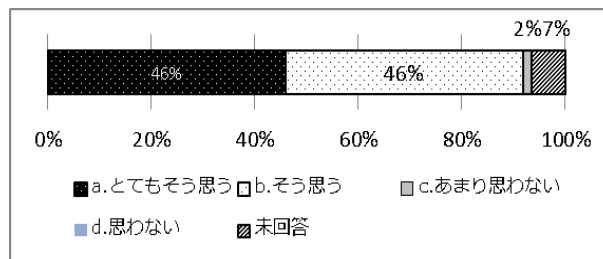
- ・地域学校協働活動の意味づけが、実施の事例と対比するなかで理解が深まった。一方、課題が浮き彫りとなった。自分の市町でどのように落とし込むのか、考えさせられた。
- ・地域学校競技を推進するには、コーディネート力が重要であることがわかった。
- ・南あわじ教育長の考える課題、とりくみ、姿勢等、同感します。
- ・これからの自分の役割の変化を知ることができたこと。
- ・学校と地域との連携の大切さ、学校の空き教室の活用。
- ・コーディネーターの見事なまとめ方で、「学校と地域の協働」についての理解が深まった。(腑に落ちた)
- ・パネルディスカッション。県の考え、有権者の考えが実践者の考えをうまく方向づけていた。
- ・立場の違いによる苦勞が分かり、それを知った上で取り組むことができる。

※自由記述は主なものを一部抜粋し、文意を損なわない範囲で語句等の加筆修正を行っています。

3. 本日のご参加を踏まえ、今後の地域学校協働活動について、ご意見・ご感想をお聞かせください。

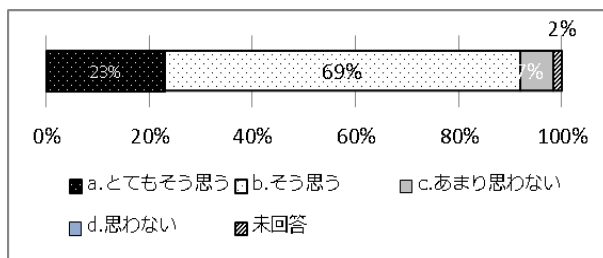
1) 本日のフォーラムに参加して、あらためて、次世代の学校・地域創生に向けて、地域学校協働活動の必要性や、地域学校協働本部の有効性が理解できた。(1つ選択)

回答	回答数	構成比
a.とてもそう思う	28	46%
b.そう思う	28	46%
c.あまり思わない	1	2%
d.思わない	0	0%
未回答	4	7%
計	61	100%



2) 「学校支援」から、「地域連携・協働」へ変革・発展するイメージを持つことができた。(1つ選択)

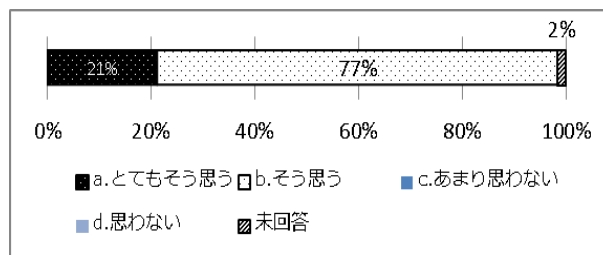
回答	回答数	構成比
a.とてもそう思う	14	23%
b.そう思う	42	69%
c.あまり思わない	4	7%
d.思わない	0	0%
未回答	1	2%
計	61	100%



3) 今後、自分もできることから「地域学校協働活動」に参画・協力、または推進したいと思う。

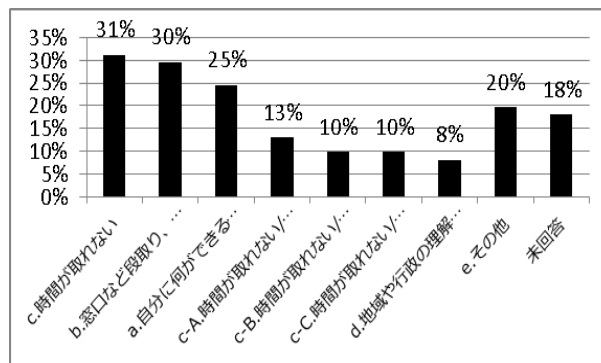
(1つ選択)

回答	回答数	構成比
a.とてもそう思う	13	21%
b.そう思う	47	77%
c.あまり思わない	0	0%
d.思わない	0	0%
未回答	1	2%
計	61	100%



4)「地域学校協働活動」に協力していくにあたり、課題となることは何ですか。(複数回答可)

回答	回答数	相対度数
c.時間が取れない	19	31%
b.窓口など段取り、手順がわからない	18	30%
a.自分に何ができるかわからない(テーマや方法など)	15	25%
c-A.時間が取れない/教材の準備	8	13%
c-B.時間が取れない/学校との打ち合わせ	6	10%
c-C.時間が取れない/授業実施	6	10%
d.地域や行政の理解が得られない	5	8%
e.その他	12	20%
未回答	11	18%



N=61

e. その他自由記述

- ・活動に対して集団を見つけづらい。
- ・地域と学校双方向の関わりが必要。学校に地域が関わっていくあり方とともに、学校がどのように地域に関わっていくかも課題と考える。
- ・人と人のつながりを作る始点となるべきスタート地点はどこ？やれる人探し。
- ・優れたアイデアを実現するための協力体制の組織（障壁とることが多いので・・・）
- ・コーディネーター役の存在、または育成（地域でも、学校でも）
- ・中学校では、部活動、行事など中心に行っているが、包括的な取り組みを継続させるのはむずかしい。
- ・人材が地域に少ない
- ・自分がどの程度関わりを持っていけばよいか、明確でないこと。
- ・コーディネーターの人材不足
- ・組織をどうつくり、どう動かすか。
- ・業務改善が言われている前、地域の新しい行事は難しい。
- ・学校との協力関係

※自由記述は主なものを一部抜粋し、文意を損なわない範囲で語句等の加筆修正を行っています。

5) 今後、「地域学校協働活動」について知りたいこと（やりたいこと）は何ですか。自由記述

- ・自然科学と伝統文化
- ・自分ができることから協働活動に参加してゆきたい。
- ・学校と地域学校協働本部をつなぐコーディネーターの人材確保、コーディネーターに必要な資質能力をくわしく知りたい。
- ・小・中学生、高校生も含めて交流をさせることができれば。
- ・まずは、社会教育（地域づくりも含む）の動きについて、学校現場に理解してもらうことが必要と感じた。子供たちが、地域で活動していることの情報共有が必要。
- ・現在、学校支援をコーディネーターさんのお世話を通して活動しているが、今後もし縁があれば自分のできる範囲で活動したいが、コーディネーターさんの力も大きいと感じた。
- ・人と人のつながりを作るノウハウ
- ・「社会の開かれた教育課程」をもっと勉強する必要があると感じた。
- ・ハロウィンで地域の人達と子供たちの交流があったら楽しいかな？と思います。
- ・他市の情報
- ・社会教育の良さを学校に伝える努力をしたい。
- ・活動中の事故等の保障、責任の明確化について。先進地区の取組。学校現場が更に多忙化しないか。

特に教頭。

- ・具体的な事例をもっと知りたい。
- ・社会に開かれた教育課程の実現に向けた具体的取組。
- ・協働をすることは、絶対コーディネートする力が必要です。もっともっとコーディネーターの立場を確立し、コーディネーターに協力する行政や学校のしくみがほしいです。
- ・まず、地域学校協働活動事例が大量に欲しい。そこから、やりたいことが見えてくると考えている。
- ・コーディネーターは学校評議員のように、学校が指名していける体制が必要だと感じる。どのようなしくみでコーディネーターをつくっていくのかを知りたい。
- ・休日や放課後の活動を地域が行っていく。親子活動、学習イベント等。
- ・活動内容、活動をしているということを周知させる工夫は必要かと思います。地域の方々の輪に溶け込む感じを受けられると良いですね。
- ・伝統文化、芸能、歴史の継承、活動についてのふるさと意識の向上、ふるさと振興。
- ・地域学校協働活動の中で自分に出来る事があればお手伝いできればよいと思います。
- ・地域の全世代の人達と、子供達との関わり。
- ・淡路島内3市での協力体制（ネットワーク）の構築

※自由記述は主なものを一部抜粋し、文意を損なわない範囲で語句等の加筆修正を行っています。

4. 本日まで参加されてのご意見、ご感想等、ご自由にご記入ください。

- ・地域と密着する文化として、だんじりや人形浄瑠璃などは最適なものであるといえる。この地域の伝統はある程度のゆるさを含みつつ金銭の移動が発生しにくいものであると言える。それが逆に大きな成功と継続につながったのではないかとと言える。
- ・生きていく上で多くの方と協働して楽しく活動に参加したい。人が多くあるのがよいことである。
- ・今日はボランティアの立場として聞かせてもらいました。活動推進のしくみ作りがこれ程大切だと、又、色々なものの連携の大切さも感じる時間となりました。有意義でした。
- ・各立場の考えと実践を出し合っ、それを聞かせていただき、思考の幅が広がりました。ありがとうございました。
- ・期待していた以上の内容で、たいへん勉強になった。
- ・みなさん、とても行動力があって素晴らしいと思いました。
- ・学校の統廃合の課題と地域学校活動推進との整理が、この淡路地区では必要！！
- ・とても参考になりました。
- ・上田先生の意見に賛成です。地域ごとに場となる場所や役割が違う。学校や公民館の役割などもかわっていく。まして、カリキュラムもかわっていく。統一したルールはないということ。統一していくことは逆に障害（壁）となると思った。
- ・いくつかの取組の内容が、発表によって理解できたことはよかった。
- ・たいへん良かったです。学校教育と社会教育の壁を低くできるよう、頑張れる気がしました。
- ・学校施設の有効活用。“学校”の存在に付加価値を見出し出していかなければならない。
- ・事例発表はいつも成功例が多いです。失敗談や苦労談、解決方法の導きがあったらいいです。教育委員会内でも学校からも、社会教育課の立場って弱いです。とても勉強になりました。これからの子どもの為に学校、地域、保護者との連携が必要です。横のつながりができる様なしくみができればいいなと思います。学校も教育委員会も、一生懸命やっていると思いますが、何か自分の所の為だけに動いているように見えます。今日のフォーラム、市教委単位で校長先生に聞いてもらいたいです。

- ・ 今日だけでなく、地域学校協働活動推進フォーラムを毎年行っていくことで、さらに理解者・実践者が増えると思った。
- ・ これだけのフォーラムを開催するのは、多くの準備、運営は相当な手間と費用等があったと思いますが、定期的を開催できればと思います。
- ・ 協働を入れるなら何かを減らさなければならない。働き方改革の議論とも関連させていかなければならない。
- ・ とても勉強になりました。
- ・ これからは、地域との連携は、学校現場において欠かせなくなっている。コーディネーターの育成をはじめ、学校も地域へ積極的に働きかけていく姿勢が大切だと思う。
- ・ 事例を聞くことができてよかった。
- ・ 学校運営協議員（会）とも重なる部分があると感じられます。相互、効率よく機能していかれると、もっと良いと思います。充実すると思います。勉強になりました。ありがとうございました。
- ・ 地域が子どもたちを育てる、育てている実態が知れて嬉しかった。
- ・ 新しい地域コミュニティのあり方について、いろいろな立場の人が考える機会になったと思います。
- ・ 地域協働は子どもにとってはとてもいい事で大切な事であるので行っていく事は大切である。ただ、その行事等を地域の中で企画、運営が行えるような体制づくり。
- ・ パネルディスカッションでは、とても良い意見交換を聞くことができ、今後の活動に活用していきたいと感じました。
- ・ キャリアリンクさんの協力のおかげで、事例プレゼンテーションがとてもわかりやすく、地域の努力、達成感、悩みがとてもよくわかりました。どの事例も地域の方の力がよく伝わってきました。
- ・ 子どもが持つエネルギーをもっと活用して人を集める。学校の性質がどうも閉鎖的になっている気がしてならない。今日の、教育長のことばをもっと広めてほしい。
- ・ 3つの事例を聞き、それぞれ地域学校協働活動がされているという事を知り、色々な方々が子供達のために頑張っておられるのが分かりました。
- ・ 協働活動の活動範囲を広げていきたい。

※自由記述は主なものを一部抜粋し、文意を損なわない範囲で語句等の加筆修正を行っています。

■地域学校協働活動推進フォーラム in 南国市

【概要】

日時	2018年1月28日（日）13:30～16:45	
会場	南国市立稲生小学校 〒783-0084 高知県南国市稲生 561-1	
対象	148名	
目的	これまでの学校支援地域本部から地域学校協働本部への発展を目指す取組とはどのような取組なのか、何が違うのかを事例を通して理解すること、また地域と学校が同じビジョンをもって、地域学校協働活動の継続的な活動を行うことによる効果や、地域学校協働活動で核となる地域コーディネーターの役割や機能を理解することを目的に実施。	
実施協力	高知県教育委員会、南国市教育委員会、香美市教育委員会、高知大学 地域協働学部	
	時間	内容
第1部	13:30～ 13:40	<p>【挨拶・事業主旨説明】</p> <p>文部科学省 生涯学習政策局 社会教育課 地域学校協働推進室 室長 西川 由香</p> <p>【来賓ご挨拶】</p> <p>南国市教育委員会 教育長 大野 吉彦 氏</p>
	13:40～ 15:00	<p>【事例発表】 映像3分＋事例紹介20分</p> <p>事例① 学校支援から地域づくりへ！地域コミュニティの再構築をめざす “チーム稲生”の地域学校協働活動 ・南国市立稲生小学校 PTCA 会長 川田 朋子 氏</p> <p>事例② よってたかって地域が育てる教育！ 香美市全中学校が参加する土曜授業 キャリア・チャレンジデイの取組 ・香美市教育委員会 教育振興課 主監 上村 安和 氏</p> <p>事例③ 地域創生をめざす 高校とまちの協働による地域連携学習 地域で活躍する”リーダー”の育成を目指す窪川高校の取組 ・四万十町営塾 塾長 前田 喜久子 氏</p>
第2部	15:10～ 16:40	<p>【パネルディスカッション】</p> <p>「地方創生にむけた新たな教育の実現による学校と地域の協働を考える」 地域・学校の課題を解決する地域学校協働活動の現状を共有し 学校支援から地域協働へ、転換を目指す”カギ”を探り、地方創生にむけた 新たな教育の実現を通しての学校と地域の協働を考える</p> <p>●パネリスト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高知大学地域協働学部 教授 内田 純一 氏 ・南国市立稲生小学校 校長 箕 尊士 氏 ・香美市教育委員会 教育長 時久 恵子 氏 ・高知県教育委員会事務局 生涯学習課 課長 森 克仁 氏 ・高知県立窪川高等学校 校長 森本民之助氏 <p>●ファシリテーター</p> <ul style="list-style-type: none"> ・株式会社キャリアリンク 代表取締役 若江 眞紀
	16:40～ 16:45	<p>【挨拶・アンケート記入依頼】</p>

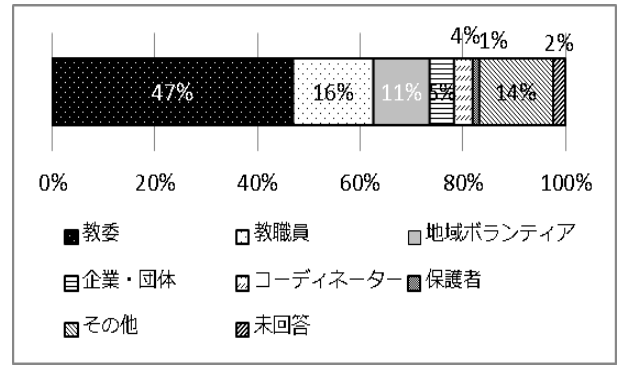
□会場の様子（写真）



アンケート結果

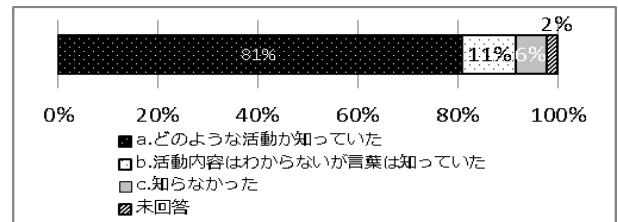
参加者の属性

回答	回答数	構成比
教委	39	47%
教職員	13	16%
地域ボランティア	9	11%
企業・団体	4	5%
コーディネーター	3	4%
保護者	1	1%
その他	12	14%
未回答	2	2%
計	83	100%



1. 地域学校協働活動をご存じでしたか？

回答	回答数	構成比
a.どのような活動か知っていた	67	81%
b.活動内容はわからないが言葉は知っていた	9	11%
c.知らなかった	5	6%
未回答	2	2%
計	83	100%



■属性別内訳

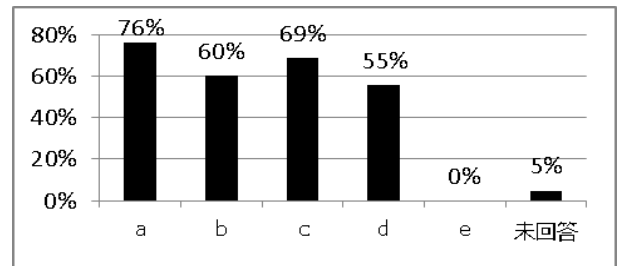
回答	教委	教職員	企業・団体	保護者	コーディネーター	地域ボランティア	その他	未回答	合計
a.どのような活動か知っていた	35	10	1	1	3	9	8	0	67
b.活動内容はわからないが言葉は知っていた	3	3	1	0	0	0	1	1	9
c.知らなかった	1	0	1	0	0	0	3	0	5
未回答	0	0	1	0	0	0	0	1	2

2. 本日のプログラムについて、ご意見をお聞かせください。

1) 今回のプログラムでよかった（参考になった）ものをお教えてください。（複数回答可）

■全体集計

回答	回答数	相対度数
a.事例紹介/"チーム稲生"の協働活動	63	76%
b.事例紹介/香美市の土曜授業	50	60%
c.事例紹介/"リーダー"育成の取組	57	69%
d.パネルディスカッション	46	55%
e.その他	0	0%
未回答	4	5%



N=83

■属性別内訳

回答	教委	教職員	企業・団体	保護者	コーディネーター	地域ボランティア	その他	未回答	合計
a.事例紹介/"チーム稲生"の協働活動	30	11	3	1	3	6	8	1	63
b.事例紹介/香美市の土曜授業	29	8	1	1	2	5	4	0	50
c.事例紹介/"リーダー"育成の取組	31	10	2	1	2	6	5	0	57
d.パネルディスカッション	30	7	1	0	2	3	3	0	46
e.その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0
未回答	0	0	0	0	0	1	2	1	4

2) 上記で「よかった（参考になった）」とご回答の場合、そのうち1つについて、どういった点がよかった（参考になった）か、理由も一緒に教えてください。（自由記入）

【稲生小学校での地域学校協働活動】

- ・稲生チームの実践は、上記の研究会の究極の目標地点であると共に、日本の進むべき在り方であると考えます。すばらしい！！
- ・チーム稲生として地域と一体となって目標共有して様々な取組をされ、学校も地域も活性化されていること。
- ・地域の方の協力
- ・コミュニティスクールと学校協働本部について
- ・地域の人々が学校につかって協働活動を地道に施している。
- ・高齢者との絵本の読み合いで、高齢者・児童の生きがいの充実など。
- ・稲生小学校が地域と協力して活動していると思った。
- ・PTA会長の発表が良かった。学校、保護者、地域の方々の協力体制がすばらしいと思いました。
- ・絵本の読み合いで高齢者との交流ができていたところ。

【香美市教育委員会 土曜授業 キャリア・チャレンジデイ】

- ・自分の地域の中学校は、キャリア教育のメインが職場体験で終わっている。今日の事例をもとに何か考えられないかと思っている。
- ・本気度が伝わった。企業とも互恵的関係が築ける画期的な取り組み。
- ・中学生のキャリア教育について、職場体験だけでなく働くことそのものについての学習を行っていることが素晴らしいと感じた。
- ・市全体として活動しているところ。学校間でのバラツキがなくなる。
- ・多くのものを現実の社会とリンクさせ、不安や心配をもつ中学生の時期に、実際に今から向かう時間を生きている方々の生の姿は大きな支えであり、勇気、夢が湧く体験となると思いました。
- ・自分の住んでいる市の中学校も統合する予定なので、3つの中学校が合同で市として行うプログラムがよいと思った。
- ・中学校は進路にもっとも重きがおかれているので、地域に支援していただく機会が少ないので、キャリア教育の観点から大変参考になった。
- ・市という単位で続けている。テーマに共感した。

【窪川高校 高校とまちの地域連携学習】

- ・町の事業で県立の高校を全面的に支援している取り組みについて、情報共有のやり方、具体的内容など、もっと掘り下げて知りたいと感じました。
- ・大変わかりやすかった。
- ・ちがった目で四万十の良さを考えていくことに新鮮さを感じた。
- ・黒潮町での大方高校との連携や、四万十市西土佐地区で西土佐分校との連携など、参考になる取り組みでした。
- ・取組の内容がわかりやすかった（表面的ではない）。
- ・存続の危機にある高等学校の学びを支える仕組み
- ・地域と学校が協力して活動。
- ・じゆうくのお話が、(株)ファウンディングベースという会社での事と聞き、この様な仕事があるのかと驚き！！
- ・学校が地域の中核とならなければとの思いで塾が出来た。しかし、町は支援と学校は協働と意識の違いが出来た。その気づきを今後につなげるとの高校長の思いが良かった。

- ・地域課題の解決を図る活動の進め方、地域資源の活用促進について
- ・じゅうくの取り組み

【パネルディスカッション】

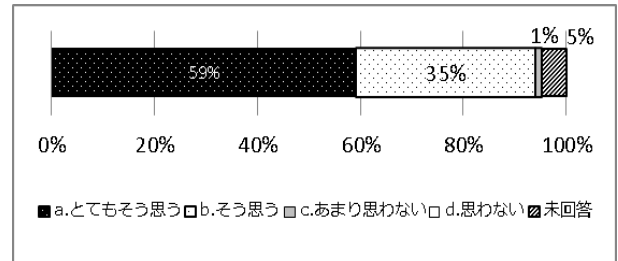
- ・ いろんな立場の方の意見を共有できた。
- ・ いろいろな意見が聞けた。
- ・ 具体的な考え方が伝わった。
- ・ 未来の社会に生きる子どもに、どのような資質・能力をつけるかという視点での協働が重要だということ。
- ・ 今の生の意見がディスカッションされることで、新たな方向性をイメージすることができるから。ゴールイメージさえも新たに創造していくヒントが得られた。
- ・ 支援と協働は違う。協働は学びのプロセス。
- ・ 地域学校協働活動の具体的な取組を聞くことで、県内でどのような取り組みを広めていけばよいかの参考となった。
- ・ 事例紹介をされた方々、パネルディスカッションの皆さん全ての方々が、未来を担う子ども達について考え、そして地域活性化につながる様々な努力をされていて、その努力が実を結ぶ高知県であってほしいなと思いました。
- ・ リーダーの育成を目指す取組。
- ・ 発表内容、発言内容の全て

※自由記述は主なものを一部抜粋し、文意を損なわない範囲で語句等の加筆修正を行っています。

3. 本日のご参加を踏まえ、今後の地域学校協働活動について、ご意見・ご感想をお聞かせください。

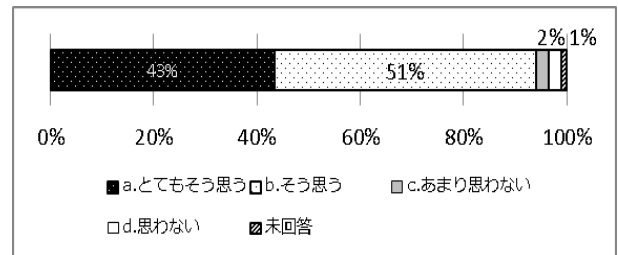
1) 本日のフォーラムに参加して、あらためて、次世代の学校・地域創生に向けて、地域学校協働活動の必要性や、地域学校協働本部の有効性が理解できた。(1つ選択)

回答	回答数	構成比
a.とてもそう思う	49	59%
b.そう思う	29	35%
c.あまり思わない	1	1%
d.思わない	0	0%
未回答	4	5%
計	83	100%



2) 「学校支援」から、「地域連携・協働」へ変革・発展するイメージを持つことができた。(1つ選択)

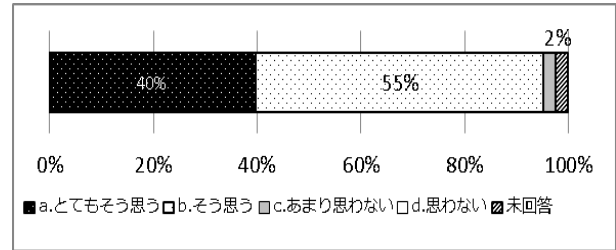
回答	回答数	構成比
a.とてもそう思う	36	43%
b.そう思う	42	51%
c.あまり思わない	2	2%
d.思わない	2	2%
未回答	1	1%
計	83	100%



3) 今後、自分もできることから「地域学校協働活動」に参画・協力、または推進したいと思う。

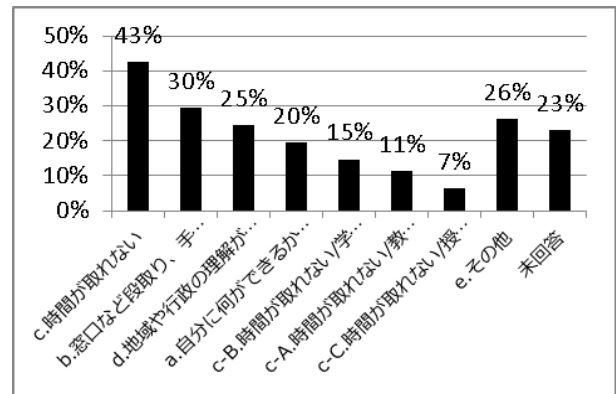
(1つ選択)

回答	回答数	構成比
a.とてもそう思う	33	40%
b.そう思う	46	55%
c.あまり思わない	2	2%
d.思わない	0	0%
未回答	2	2%
計	83	100%



4) 「地域学校協働活動」に協力していくにあたり、課題となることは何ですか。(複数回答可)

回答	回答数	相対度数
c.時間が取れない	26	43%
b.窓口など段取り、手順がわからない	18	30%
d.地域や行政の理解が得られない	15	25%
a.自分に何ができるかわからない(テーマや方法など)	12	20%
c-B.時間が取れない/学校との打ち合わせ	9	15%
c-A.時間が取れない/教材の準備	7	11%
c-C.時間が取れない/授業実施	4	7%
e.その他	16	26%
未回答	14	23%



N=83

e. その他自由記述

- ・学校の理解が得られるのか…
- ・実はやりたい人は非常に多忙。時間があるが、やりたいとまで思っていない人をどう巻きこめるか?
- ・地域の人は教育のプロではない。子どもの実態に応じた教育方法や教育目標には、うといのは仕方ないことである。もっと教師の出番(丸投げをしない)を検討し、共に教育活動を作っていくシステムを構築する必要がある(全国的課題)。
- ・私立小学校でどこまでできるか。行政の協力を得られるか。
- ・専門的知識を持ったスタッフの確保
- ・柔軟な発想力
- ・地域毎の課題が違い、協働できることも違う。コーディネートがとても大切になる。例を多く発信していくことが大切。
- ・学校側の明確な方向性の提示不足
- ・より多くの地域住民に賛同していただくための、粘り強く効果的な取り組み。
- ・私学として指揮練り
- ・人材確保
- ・学校教育のカベを越えること。
- ・効率的な会議運営や記録(見通し)
- ・学校、活動の目的、指針を知り難い。
- ・地域性や各校によって違うので、全ての底上げが難しい。
- ・市町教育委員会のやる気、人材確保など。

※自由記述は主なものを一部抜粋し、文意を損なわない範囲で語句等の加筆修正を行っています。

5) 今後、「地域学校協働活動」について知りたいこと（やりたいこと）は何ですか。自由記述

- ・（実質的な）協働のために学校の見えざる「壁」を低くすること。
- ・ こういうフォーラムを地域・学校に出かけてやってほしい。まずは深めるより広める。都市部での大規模がかかわる地域ってどのくらいのイメージ？
- ・ 私立小学校でこの活動を展開していくために行政との協力はどこまで可能か。
- ・ まだまだ学校の敷居は高い（地域の方にとって）と感じているので、色々と参加できる事を考え、増やしていきたい。
- ・ その人その人、地域でできる可能なこと、小さいことでもその他ならではのことができれば良い。無理をせず続けられること。
- ・ ” 4. 自由記述 ” の意見と矛盾するかもしれませんが、今やっていることを発展させていけば簡単に取り組めるのでは…と思います。でも、そのためには学校と地域の信頼関係づくり、地域の力（強み）の把握が必要ですね。
- ・ キャリアチャレンジのような取組。
- ・ 先進事例をどんどん提供して欲しい。
- ・ 地域の人々にコマーシャルをする手段等が大変です（全体を巻き込む）。
- ・ より多くの学校での成功事例。
- ・ 地域住民の方々お一人お一人が学校を身近に感じていただき、”自分たちも一緒に応援していこう”と置いていただけるような働きをしていきたいと思いました。
- ・ 地域の人達に少しでも多く理解してもらい、協力していける様な環境づくりをしていきたい。
- ・ 地域が活性化していくためにできることを行っていきたい。
- ・ CN、人材の発掘、好事例の収集
- ・ 今回の様に各地域での先進事例から多くのことを学んでいきたい。
- ・ 高齢化が進む中で、地域によっては高齢者で学校へ協力してってくれる方が年々と減っていくと思います。減っていく高齢者の協力者にかわる新たな人材の確保。
- ・ 先生方の学校での毎日の修学時間、授業以外の在学時間、休日出勤（労働過重問題）
- ・ 現在の学校は、マンパワー不足と学力向上につながる授業数不足という課題があると思うが、地域協働と現実、具体的にどう解決していくかを知りたいと思った。
- ・ 地域の活性化と児童・生徒の増加策。地域との関わり。
- ・ もっともこの目標が全ての職員が理解できる会等。
- ・ 「地域とともにある学校づくり」という意識改革！
- ・ 学校教育（教育委員会）と学校教育課のつながりだけでなく、地区の自治組織とどうつながっていくか考えていきたい。
- ・ 学習支援の先進例（体系化しているならば、そのやり方）。

※自由記述は主なものを一部抜粋し、文意を損なわない範囲で語句等の加筆修正を行っています。

4. 本日ご参加されてのご意見、ご感想等、ご自由にご記入ください。

- ・ 課長さんの熱い思いが伝わりました。稲生小の校長先生→実践をまたゆっくりお聞かせいただきたいです。(支部本部の事、教員の働き方改革、子どもに学力をつける→思いや苦勞が伝わってきました。)
- ・ 楽しいフォーラムでした。ありがとうございました。
- ・ 寒い中、たくさんの方が集まって非常に良いフォーラムだったと思います。
- ・ パネルディスカッションは、ステージ上が見やすく分かりやすいのではないかとファシリテーターのマイクが聞こえづらかった(話し方も少し速いので更に)。
- ・ 本日はスタッフのみなさんお疲れ様でした。”
- ・ テーマに迫るためには、地域の人もいなくては…行政側からだけの思い込みでの発言に対して、例えば、支援か協働かということに地域はどう考えるか、カギもその答えがあったかも…。
- ・ コーディネーターは難しいですね。
- ・ どんなイメージを持っている人がよいのか。また、本当によく分かっている人なのか。だから、どんな話題に迫るかが明解ではない。
- ・ 事例発表者のすべての自治体に配慮するのは分かるが、拡散しすぎるので、人もテーマも絞る事が必要なのかも。
- ・ 【アンケートの設定について】これらの項目設定はなぜ？(自由記述欄も狭いし…)
- ・ さむかったです。パネルディスカッションが少し長く感じたので、全体やブースでの参加型のプログラムがほしい。
- ・ 大変勉強になりました。ありがとうございました。
- ・ 学校支援と児童生徒についての支援をしてもらうことばかり考えていたが、「ともに育ち合う」協働ということを今日教えていただきました。ありがとうございました。
- ・ 県教委も大学も、報告された3つの地域や学校・団体の方々も、各々の立場から熱い思いを持って、新たな教育の実現を通して地域を元気にし、人々が元気になるようにと取組み、努力していることが伝わってきました。自らの今の立場でできることから頑張っていきたいと思いました。
- ・ 子どもを育てる母体をしっかりと確立することが大切。地域・学校・家庭がしっかりと結び、補いながら子どもを支援していく子どもと共に育っていく取組みがさらに広がってほしい。
- ・ 自分にとって”今できる”ところからスタートすることの大切さを実感。
- ・ “学校支援地域本部さえ始まっていない当地域からすると、自分自身はワクワクする内容でしたが、遥か遠いイメージです。※4)の解答に対して d. 地域や行政の理解が得られない→学校も含めての意識改革
- ・ 勉強になりました。総合的な時間の計画に生かしたいです。
- ・ 大変勉強になり参加できて良かった。
- ・ 寒い中、準備等ありがとうございました。
- ・ 貴重な機会があって大変勉強になりました。
- ・ スクリーンや音響は文科省から送ってきてほしい。見えない、聞こえない、もったいない。住民が入っていないのでダイナミックさに欠ける。パネルは舞台上でやってほしい。長い。
- ・ 地域の方々の全員でトライする手段の構築を考えたい。
- ・ 色々の特徴のある取組が聴けて良かった。
- ・ パネルディスカッション時等のPPTのフォントが小さすぎる。
- ・ 今回のフォーラムで得たものが、実践できる場が欲しいと思いました。
- ・ まだまだ支援をいただかないと学校の運営は成り立たない状況というのは現実。というか、人によってですが、声・マイク音量が小さくほぼ聞こえなくて何を討議しているか分からなかった

- ・地域と学校が今以上に密になり、協力して活気ある地域づくりを。
- ・有意義でした。
- ・県外の事なのですが、小学生が放課後学校で勉強を見てくれるそうです。学生の方とか地域の方がボランティアで。学童ではないとの事です。
- ・寒い中、ご苦労様でした。
- ・いろいろな地域の取組が聞けて、とても参考になりました。
- ・協働という言葉がいつもあいまいで、言語化できにくい概念が事例とパネルディスカッションで少しイメージできました。
- ・大人も日々学ぶことが新たな社会を創り上げるということを再認識しました。
- ・あらかじめマイクテストをした方が良い。最初の話が聞きにくかった。
- ・パネルディスカッションの場面で、パネリストの顔が見ない。ステージの上でやったら良いと思う！
- ・充実した内容でとても良かったです。
- ・大変興味深いお話を聞かせて頂きました。
- ・国や県に望むことは、机上で予算や学校の生徒数で統廃合を決定するのではなく、地域全体で学校を中心として子ども達のことや地域づくりに努力している学校を認めて存続させてもらいたいと思います。学校は地域の宝です！！
- ・貴重な事例に触れる機会をいただき、ありがとうございました。大変参考になりました。
- ・これから、今、地域の方が支援してくれている事が、次世代へつなぐためには課題があります。
- ・南国市の中学校で過去自殺もあり、また不登校の生徒も大勢いる。いじめ問題も多いと思う。それを改善する為の教育のあり方を知りたい。
- ・声が聞き取りにくかった。スクリーンが小さい。
- ・第2部ディスカッションの時間取りすぎ。”
- ・あまりに寒かった。午後については、ここで行う必要性はなかったと思う。
- ・じゆうくの仕事に興味深々！！
- ・今、民生児童委員をしていますが、健康で永く頑張る事を改めて思いました。
- ・小学校（子ども会）と自治体（公民館）が互いに協力した活動をしていかないと、次世代の人材は育っていかないとって微力ながら活動しているが、今日の話聞いて非常に参考になった。
- ・地域の活性化には学校が活発にならなければと思った。そのための地域の関わりを継続的に自発的に進める活動は重要である。
- ・優しさ、思いやりがあれば自然と必要とされる部分。自分が役に立てる場所が見えてくると思います。大事なのは優しく、思いやりのある人間に育てる地域づくりだと思います。
- ・「協働とは自分自身を見つめ直すプロセスである」との内田先生の言葉がとても心に残りました。よき地域創生に向かうためには「何をするか」に視点が行き、何かをしなくてはとのあせりに似た感がありました。リフレクションを大切に地域と共にしっかりと歩みを進めたいと思いました。
- ・とても良かったです。
- ・今後の地域と学校の発表のためにどうあるべきかを考える機会となりました。
- ・ファシリテーターの声が大変聞き取りにくかった。何を言ってるか分かりにくい。もっと簡潔にハキハキと分かりやすく。
- ・四万十町のじゆうく。を利用している生徒の割合を教えてくださいました。
- ・学校支援と協働との明らかな違いがさらに不明となった。

※自由記述は主なものを一部抜粋し、文意を損なわない範囲で語句等の加筆修正を行っています。

■地域学校協働活動推進フォーラム in 戸田

【概要】

日時	2018年2月3日(土) 9:20~16:00	
会場	戸田市立戸田第一小学校 〒335-0022 埼玉県戸田市上戸田3丁目7番5号	
対象	第1部 戸田市立戸田第一小学校 児童 106名 第2部 地域学校協働活動推進員(地域コーディネーター)、放課後児童支援員、学校関係者、保護者、生涯学習・社会教育関係者、放課後子ども総合プランに関わる行政担当者及びボランティア 128名	
目的	放課後子供教室と放課後児童クラブとの一体型の取組を、地域の方及び企業・団体等による多様なプログラムのショーケースとして機能させるべく、児童向けプログラム体験会を実施。また、事例発表とワークショップを通じて一体型取組の連携について理解を深め、放課後子供教室と放課後児童クラブとの一体型の取組の普及・推進を行うことを目的として実施。	
実施協力	埼玉県教育委員会、戸田市こども青少年部、戸田市教育委員会、戸田第一小学校	
	時間	内容
第1部	9:20~ 9:40	【開会式】 挨拶 文部科学省 生涯学習政策局 社会教育課 地域学校協働推進室 室長補佐 佐藤 貴大
	9:55~ 10:45	【第1セッション】 地域住民の方及び企業・団体による放課後子供教室等で実施可能な特色ある学習プログラム体験会 (5プログラムを実施) *P28参照
	11:00~ 11:50	【第2セッション】 地域住民の方及び企業・団体による放課後子供教室等で実施可能な特色ある学習プログラム体験会 (5プログラムを実施) *P28参照
第2部	13:00~ 13:30	【挨拶・事業主旨説明】 挨拶 文部科学省 生涯学習政策局 社会教育課 地域学校協働推進室 室長 西川 由香 来賓挨拶 戸田市 市長 神保 国男 氏 放課後子ども総合プラン説明 ・文部科学省 生涯学習政策局 社会教育課 地域学校協働推進室 室長補佐 佐藤 貴大 ・厚生労働省 子ども家庭局 保育課 健全育成推進室(子育て支援課併任) 室長補佐 青木 浩一 氏

第2部	13:30～ 14:30	<p>【事例発表】 20分×3事例</p> <p>事例①：小平市</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小平市教育委員会 教育部 地域学習支援課 課長 相澤 良子 氏 ・小平市立小平第八小学校 八小放課後子ども教室キラキラ☆らんど コーディネーター 井戸 雅子 氏 <p>事例②：新座市</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新座市立東北小学校 新座市子どもの放課後居場所づくり事業 東北ココフレンド コーディネーター 土屋 賢治 氏 <p>事例③：戸田市</p> <ul style="list-style-type: none"> ・戸田市こども青少年部 児童青少年課 課長 矢ヶ崎 富士夫 氏 ・戸田市立戸田第一小学校 放課後子ども教室 コーディネーター 米倉 裕子 氏
	14:30～ 16:00	<p>【ワークショップ】</p> <p>「地域学校協働活動」の事例研究ワークショップ 一体型取組のキーとなる「連携」について考え、一体型取組連携の実情に応じた推進を考え、意見交換を行いながら、一体型取組連携推進の課題解決のヒントを得る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ファシリテーター ・株式会社キャリアリンク 代表取締役 若江 眞紀 <p>【埼玉県教育委員会より】 埼玉県教育局 市町村支援部 副部長 藤田 栄二 氏</p>
	16:00	【閉会・アンケート回収】

□会場の様子（写真）

第一部 学習プログラム体験

	
<p>開会式</p>	

【5つの学習体験プログラム】

		
<p>①環境教育 NPO 法人 グリーンガーディアンズ</p>	<p>②プログラミング ブロックとロボットで 学ぶ教室 エルプレイス</p>	<p>③日本舞踊 泉流師範 泉 雅一樹</p>
		
<p>④スポーツ NPO 法人 ワールドスポーツファミリー</p>	<p>⑤将棋体験・マナー 公益社団法人 日本将棋連盟</p>	

□第1部 学習プログラム一覧

	テーマ	プログラム内容	実施者
体験プログラム	① 環境教育	<p>サクラソウをまもれ！体感ゲーム</p> <p>サクラソウは戸田市の花に制定され、戸田第一小学校の校章にも使われています。今回はゲームを通じてサクラソウを外来種からまもるにはどうすればいいかを考えます。</p>	NPO法人 グリーンガーディアンズ
	② プログラミング	<p>かんたん！ロボットプログラミング</p> <p>2人チームで協力して、タブレットでプログラムをつくり、ロボットを動かしてみよう！簡単な動かし方がわかったら、ミッションに挑戦します！</p>	ブロックとロボットで学ぶ 教室 エルプレイス
	③ 日本舞踊	<p>日本舞踊ってなんだろう？ ～着物を着て「さくら さくら」を踊ろう～</p> <p>日本舞踊の「礼（あいさつ）」、「手・足・首の動かし方」、「扇の持ち方、開き方」などの基本を学び、みんなで楽しく踊ります！</p>	泉流師範 泉 雅一樹
	④ スポーツ	<p>デカキッズ「かけっこ教室」</p> <p>すべてのスポーツの基本となる正しい【走り方】を楽しく学びます。速く走るコツを知ることによってタイムがぐんぐんアップ。ミニハードルを使った基礎練習の後、最後はリレーで練習の成果を発揮しよう。</p>	NPO法人 ワールドスポーツ ファミリー
	⑤ 将棋体験・マナー	<p>将棋に挑戦！（プロ棋士から話を聞こう）</p> <p>プロ棋士から、将棋のマナーを通して礼儀作法を学びます。その後、将棋初心者の子どもたちは駒の動かし方から体験、将棋を指せる子どもたちは、実際にプロ棋士・地域の方に挑戦します！</p>	公益社団法人 日本将棋連盟 ご協力： 戸田市地域ボランティア様

□会場の様子（写真）

第二部 「地域学校協働活動」の事例発表とワークショップ



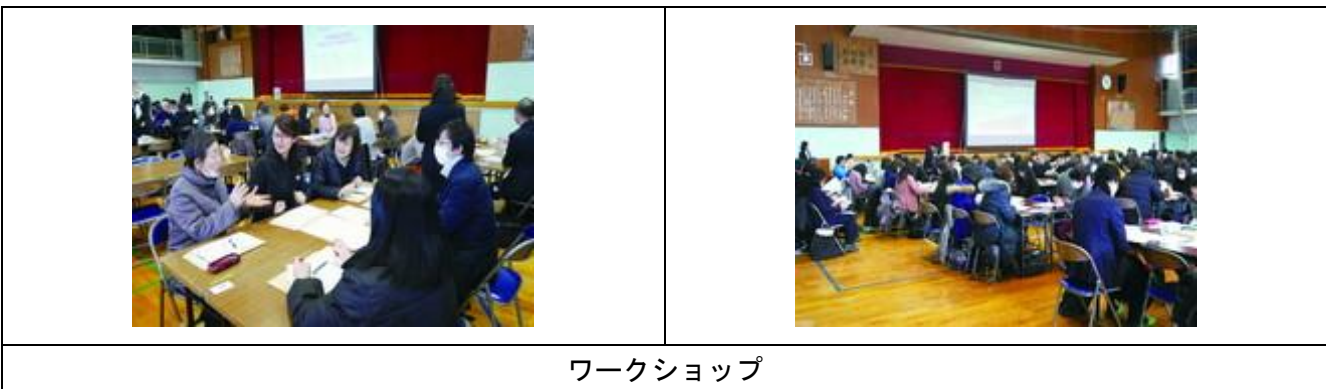
挨拶・事業主旨説明



事例①
小平市

事例②
新座市

事例③
戸田市



ワークショップ

■「地域学校協働活動」の事例研究ワークショップ

一体型取組のキーとなる「連携」について考え、一体型取組連携の実情に応じた推進を考え意見交換を行いながら、一体型取組連携推進の課題解決のヒントを得る

【導入】

ワークショップを始める前に、社会に開かれた地域学校協働活動、次期学習指導要領に求められる学校教育で育成すべき資質能力、社会に開かれた教育課程について共有し、放課後子供教室と放課後学童クラブが連携して子供たちを育てていく意義を確認した。

ワークショップでは、参加 128 名中 64 名が戸田市以外からの参加であることや、参加者の属性が教育委員会、教員、コーディネーター、地域のボランティア、保護者等様々であることから、地域と属性を混合させたグループ分けをしてディスカッションを実施し、多様な実情の相互理解と新たな視点を獲得する機会とした。

【各ワークで出てきた参加者の声を抜粋】※参考資料「ワークシート」参照

①-1 「連携」という言葉から連想するもの

<参加者の声>

- ・学校と地域の行事 ・一緒に何かをする ・一緒にものごとなどを考え、行動する
- ・同じものを共有する ・お互いの利益になるように知恵を出し合う
- ・協力協働、それぞれの立場、特長などを生かして活動する など

①-2 一体型取組推進に効果的な「連携」とは

<参加者の声>

- ・情報の共有（課題、目的ゴール共有） ・職員同士でいい所を共有すること ・予算の連携
- ・プログラムの連携 ・場所の共有 など

② 一体型取組連携の実情に応じた推進について考える

②-1 連携の実情とその評価点（上手くいっていること）または課題点

<参加者の声>

◆評価点

- ・児童がけがをした時に放課後児童クラブと放課後子供教室で共有している
- ・問題行動がある子供たちに対して、どんな対応をしているか情報共有をしている
- ・年間通して放課後子供教室の受付をしている。途中参加も受け入れているため、放課後児童クラブの児童でもいつでも登録できる

◆課題点

- ・保育と教育の違いで課題が残る。保険が違うこともあり、教育と保育のどちらに責任があるのか
- ・PTAの方が携わって放課後子供教室を行っている、送り迎えや教室の片付けに終始するため、子供を安全に届けたかの確認だけにとどまってしまう
- ・保険が別になっているため、放課後子供教室の児童と放課後児童クラブの児童と一緒に遊んだ時に何か起こると対応の仕方が変わる

②-2 すでに取り組みされていること、これから取り組むべきこと

②-3 一体型取組連携の推進にあたり、課題となること、課題解決のために取り組むべきこと

時間の都合上、②-2、②-3 について個人・グループ共有を行う時間が十分とれていなかったことから

②-2 これから取組むべきことや今回話をした中で連携について考えたことをグループで共有を行った。その後いくつかのグループの代表の方に今回のフォーラムに参加した感想を聞き全体で共有した。

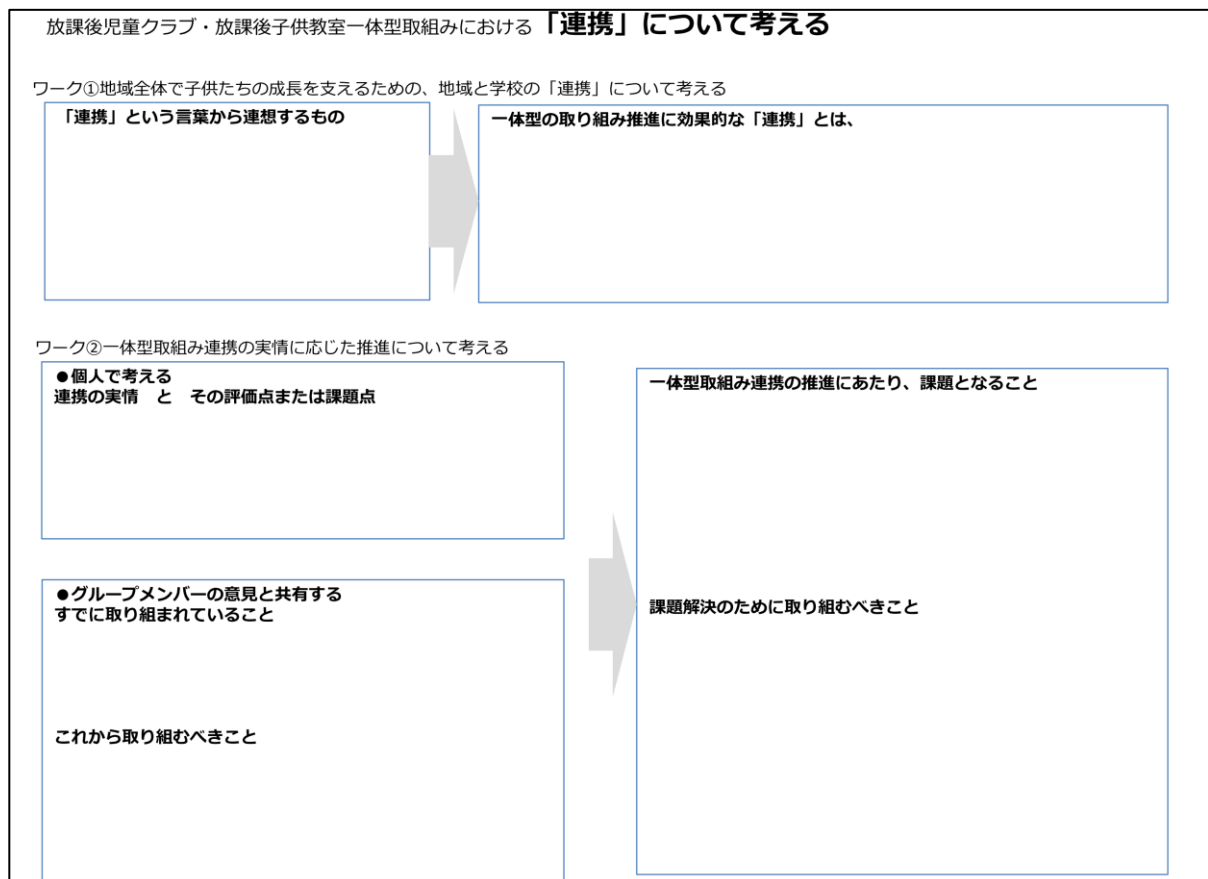
<参加者の声>

- ・異なる地域や立場の方とお話をして、今まで相手のことを知らな過ぎたことが分かった。周りの方と会話をしてお互いの理解を深めたいと思います。
- ・周りの大人が子供の情報を共有することができるか、大人が子供とどのように信頼関係を取っていくのかを考えることが大切だと感じた。
- ・放課後児童クラブの職員の方は子供に対して熱い思いがあることを知った。それならば新しい取組を考えている放課後子供教室の方が歩み寄り、まずはお互いを知ることが近道ではないかと思った。
- ・これまで放課後児童クラブと放課後子供教室と一緒に取組をしていなかったのが新年度に向けて自分でもなにか取組が出来たらよいと思った
- ・保護者としての希望になるが、子供たちが大人の指導方針の違いで迷わないためにも、放課後児童クラブと放課後子供教室で指導指針、教育方針を合わせてほしい
- ・行政の者ですが、今回参加をして地域の方が本事業を理解されている方は少ないのではないかと思った。行政としてもっと PR が必要だという課題が見えてきたことはとても良かった

【まとめ】

ファシリテーターより、「短い時間ながらも異なる地域、立場の異なる方でグループワークを通じた情報交換を行えました。本日参加された皆様には、ぜひ身近な人に一体型取組の事業説明をしていただきたい。そして自分たちの活動を無理のない範囲で良いので更によくするには何をすればよいかを考えて実践をしていただきたい。チャレンジをし続けるその姿を子供たちに見てもらいましょう。」と参加者の方へメールを送りワークショップを終了した。

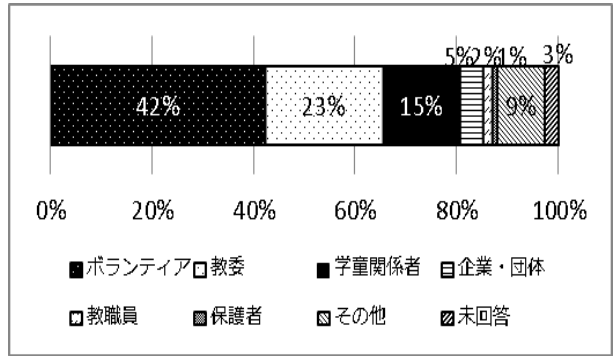
(参考資料：「地域学校協働活動」の事例研究ワークショップで使用したワークシート)



□ 第二部アンケート結果

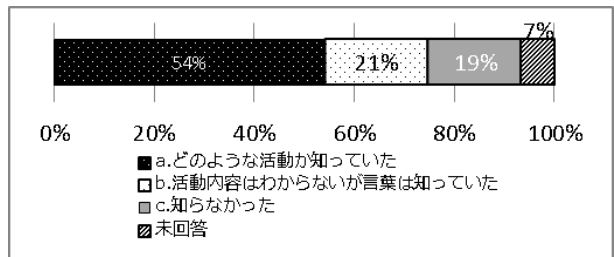
回答	回答数	構成比
ボランティア	45	42%
教委	25	23%
学童関係者	16	15%
企業・団体	5	5%
教職員	2	2%
保護者	1	1%
その他	10	9%
未回答	3	3%
計	107	58%

参加者の属性



1. 放課後子ども総合プランをご存じでしたか？

回答	回答数	構成比
a.どのような活動が知っていた	58	54%
b.活動内容はわからないが言葉は知っていた	22	21%
c.知らなかった	20	19%
未回答	7	7%
計	107	100%



■ 属性別内訳

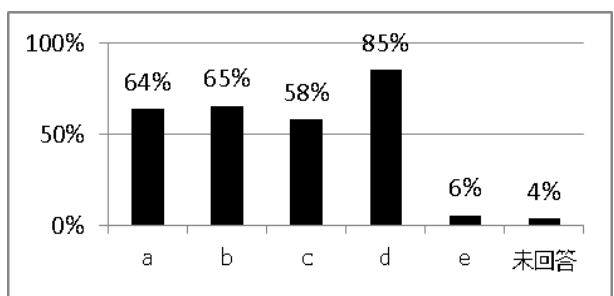
回答	教委	教職員	企業・団体	保護者	学童関係者	ボランティア	その他	未回答	合計
a.どのような活動が知っていた	23	2	2	0	10	18	1	2	58
b.活動内容はわからないが言葉は知っていた	1	0	1	1	2	11	6	0	22
c.知らなかった	0	0	1	0	3	14	1	1	20
未回答	1	0	1	0	1	2	2	0	7

2. 本日の第二部プログラムについて、ご意見をお聞かせください。

1) 今回のプログラムでよかった（参考になった）ものをお教えてください。（複数回答可）

■ 全体集計

回答	回答数	相対度数
a.事例紹介/新座市の取組	68	64%
b.事例紹介/小平市の取組	70	65%
c.事例紹介/戸田市の取組	62	58%
d.ワークショップ	91	85%
e.その他	6	6%
未回答	4	4%



N=107

■ 属性別内訳

回答	教委	教職員	企業・団体	保護者	学童関係者	ボランティア	その他	未回答	合計
a.事例紹介/新座市の取組	21	2	3	1	7	28	5	1	68
b.事例紹介/小平市の取組	20	2	3	1	9	28	6	1	70
c.事例紹介/戸田市の取組	19	2	3	1	8	23	5	1	62
d.ワークショップ	20	2	5	1	15	41	7	0	91
e.その他	1	1	0	0	1	2	1	0	6
未回答	0	0	0	0	0	1	1	2	4

2) 上記で「よかった（参考になった）」とご回答の場合、そのうち特に印象に残ったものについて、よかった（参考になった）理由について記号（a～e）もあわせてご記入ください。（自由記入）

【新座市事例】

- ・現在我々が活動している内容とほぼ同じであった。
- ・ニーズへの対応
- ・スポーツも力を入れたとりくみが良く見られ、子どもにおける現状に合った取り組みに思えた。
- ・学童の児童と放課後子供教室の児童が一生に遊べる。
- ・毎日開催されている取組みは、今後の一体型推進に大変参考になった。
- ・運営委員会、組織図、実行委員会、東北ここフレンドのシステム
- ・保護者側からの声として、子どもへの指導方法が子ども教室、児童クラブで違うと混乱するという声があったことに目からウロコでした。盲点でした。

【小平市事例】

- ・小平市の活動が大変活発だったのが印象に残りました。
- ・教育委員会から…実行委員会の組織、両事業で共通の傷害保険等への加入、中学校での放課後学習の実施。コーディネーターから…八小地区実行委員会の運営体制、プログラムの連携事例、学校のニーズに応じた教室の事例。
→とても具体的で参考になりました。※すべての事例発表が大変すばらしく参考になりました。ありがとうございました。
- ・横浜市の形式に近く、参考となった。
- ・体験学習の豊かさ
- ・子供教室の展開は大変良いと思う。
- ・多様な外部団体との連携
- ・学童児童の講座への参加
- ・子ども教室の内容が、子ども達が飽きない工夫がされていて参考になりました。

【戸田市事例】

- ・戸田市で同じ考え方のところ。
- ・登録方法
- ・学校によって教室、場所を提供出来る所はうらやましかった。

【ワークショップ】

- ・学校を説得するのに、地域、PTAを使う。
- ・他の方々のご意見をきけて、参考になりました。
- ・ワークショップでは、それぞれの地域の取り組みが紹介されよかったと思う。
- ・他市の取り組みと、d)ワークショップで伺った話の違いと現実。（現段階では保険が違うからと、学童の子と子供教室の子と一緒に遊ばせないよう市からも指導されることに、保護者として驚いたしショックでした。）子どもはその理論は理解できないと思います。習い事のようにイベントをつめこむより先に、「友達といっしょに遊ぶ」。まずこれだけでも実現してあげて下さい。
- ・様々な立場の方のお話を聞くことが出来、今後のことについて考える良い機会、良い気づきになった。
- ・他の放課後子供教室関係者、放課後児童クラブ関係者のお話をきけて、参考になりました。

- ・事例紹介はきいていて実はよく分からなかった。なぜなら、自分の所とは全くちがうので。ワークショップでようやく戸田市のやり方がわかった。全くちがひ、そのことにおどろいた。しかしながら、「連携」について考えるというWS そのものはあまりためにならない。
- ・他市、他県の状況や問題点などを聞いたことにより、現在の自分たちの問題点がみえてきたり、改善案がうかんできたりと、とてもためになりました。
- ・色々な立場の方のお話が伺えて参考になりました。
- ・地域学校協働活動の内容が見えてきた。現場での問題点もわかった。
- ・各地域の実状がよくわかり、また、それぞれ大変な努力をされていることに気づいたこと。
- ・一体化の問題点を現場レベルで知ることができた。
- ・ワークショップでの他市町村（他県を含む）の皆様と情報交換できたこと。
- ・まだ、放課後教室を行っていない自治体の思いを知ることができた。
- ・すこし時間が足りなかった。
- ・立場の違う方の考えかた、思い
- ・他の地域の活動状況がわかった。行政にかかわっている方との意見交換もできて良かった。
- ・様々な立場の方のお話が聞けて良かった。
- ・色々と考えさせられた。
- ・本題以外に他地域の情報を得る事ができた。
- ・児童クラブ、児童教室とはどういう組織か勉強になった。
- ・放課後の児童の居場所のとりえ方について、他自治体の実状や考え方について学ぶ事が出来た。
- ・他の方の話が聞けた点。課題が多くある事が分かった。
- ・全く違う職の方たちといろいろな視点からの話をできたから。
- ・各地区の実状がわかった。
- ・色々な方（地域・立場）の意見が聞けた。正直な意見もあって良かった。
- ・さまざまな立場の方々と同じグループで話し合えたことでいろいろなきづきがあって今後の活動の参考になった。
- ・一体化する点には、何をしたら良いかの問題点が明らかになった。
- ・（午前中）もっと人材を掘りおこしていくことが必要。一年を通してつみあげた内容としては…もう少し工夫が必要とかんじた。（午後）各事例に対する配布資料はとてもみやすく良かった。
- ・新座市のゾウキリン、かわいいです。
- ・小平市と新座市の取り組みは、一体型を推進した例として大変参考になりました。持ち帰って実践していきたいと思いました。
- ・外部団体の協力による教室の多様化がうらやましかった。
- ・様々な立場の方の意見、他市のとりくみを知ることができてよかった。
- ・いろんな体験をさせていると知り参考になりました。戸田の事しか知らなかったもので、良かったです。
- ・求められる事が多くなり、密度が濃くなってゆく中で右往左往する状態だが、ショックを受けたことは少しは良かったと思う。
- ・一体化までの流れがきけてよかった。
- ・それぞれ参考にしたい。
- ・少人数で各地の取組を共有することができてよかった。
- ・各市の取組みの現状がわかった。
- ・他自治体の取り組みが分かった。参考にしたい。
- ・他市の状況を知る事が出来た。

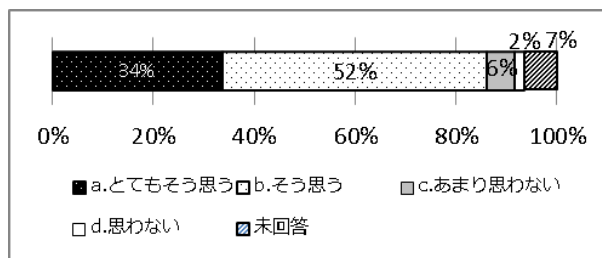
- ・それぞれの取組が参考となった。
- ・様々なボランティア協力により、子ども達が自ら活動を選んで楽しめる事例が興味深かったです。
- ・他の団体の取組状況、課題を知ることができた。
- ・現在まだ、放課後子ども教室の実施がない町の職員です。様々な事例がたいへん参考になりました。ワークショップでも様々な課題を示していただき勉強になりました。
- ・他市の取組みなどを知ることができた。
- ・学校区ごとに求められるニーズは違うこと。→それぞれの地域で、地域の子どもたちのためになる事業を展開していくひとの大切さ、他自治体の取り組みを聞くことで、事業の本質が理解できた。
- ・放課後児童クラブ支援員や学校関係者の協力事例
- ・それぞれの活動の様子と課題。
- ・ワークショップと事例発表
- ・グループの話し合いで、色々な立場の方と話ができ参考になった。
- ・具体的なお話が聞けた事。
- ・話を聞く事によって（事例）良かった。
- ・企画や運営に関して参考になりました。
- ・各市の事例紹介は今後、子供教室を運営していく上でとても参考になりました。
- ・コーディネーターの方の率直な意見を聞くことができたこと。
- ・他の市の取組について聞く事ができた事がとてもよかったです。それぞれの環境のちがいで、やれる事を考えていきたいと思います。

※自由記述は主なものを一部抜粋し、文意を損なわない範囲で語句等の加筆修正を行っています。

3. 本日のご参加を踏まえ、今後の放課後子ども総合プランについて、ご意見・ご感想をお聞かせください。

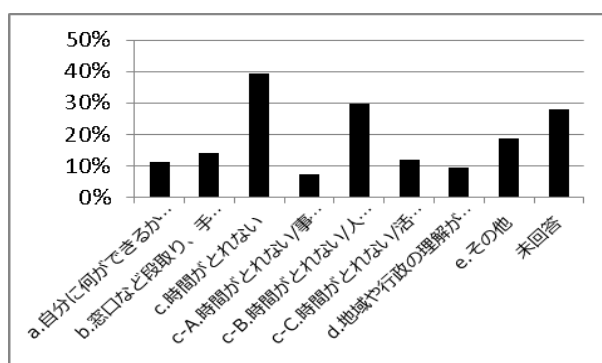
1) 本日のフォーラムに参加して、「放課後子ども総合プラン」の必要性や取組の有効性を理解できた。
(1つ選択)

回答	回答数	構成比
a.とてもそう思う	36	34%
b.そう思う	56	52%
c.あまり思わない	6	6%
d.思わない	2	2%
未回答	7	7%
計	107	100%



2) 自身が放課後子供教室および放課後児童クラブに関わるとしたら、課題となることは何ですか。
(複数回答可)

回答	回答数	相対度数
a.自分に何ができるかわからない(テーマや方法など)	12	11%
b.窓口など段取り、手順がわからない	15	14%
c.時間がとれない	42	39%
c-A.時間がとれない/事前調整	8	7%
c-B.時間がとれない/人材確保	32	30%
c-C.時間がとれない/活動内容の企画	13	12%
d.地域や行政の理解が得られない	10	9%
e.その他	20	19%
未回答	30	28%



N=107

e. その他自由記述

- ・学校の教員・保への理解、参加参画への意識改革が必要。教育委員会の中も同様。庁内研修の必要性を特に感じる。
- ・学校側の協力
- ・学校との連携(理解をどれだけ得られるか。窓口教員が代わったとき、それまで築き上げてきたものが崩れる可能性がないともいえない。)
- ・人材確保
- ・現在、子ども教室のコーディネーターをやっている為、あてはまる項目はありません。
- ・学校の理解や協力が得られない。
- ・学校の先生方の理解
- ・ボランティアに高度を求められても・・・という感じ。
- ・自分のスキルをどう役立てるか、これまで情報がなかった。
- ・課をまたがった連携体制の構築
- ・空き教室等ハード面の課題、予算確保、国からの補助金の確保
- ・保険、責任の所在
- ・関わってみないと分からないことばかりだと思う。
- ・行政からの委託によって、支援員として働きづらいことがある。
- ・ワークショップの内容が班全員、チンプンカンプンでした。
- ・主導権を持つ人がいない。各児童クラブ指導員が足りない。
- ・相互理解、プランの理解
- ・学校の理解を得る事が難しい。

- ・情報の共有化を進める環境が不十分。
- ・子どもとの関わり

※自由記述は主なものを一部抜粋し、文意を損なわない範囲で語句等の加筆修正を行っています。

3) 今後の放課後子ども総合プランの推進にあたって、より多くの理解や協力を得るためにご意見やアイデアがあればご記入ください。

- ・保護者、地域住民への情報発信、学校教職員への理解を図るために、学校へも情報発信。
- ・行政、学童、子ども教室、学校が話し合う機会を設けるべき。
- ・なかなか一緒になるのは難しい。
- ・ボランティアでの活動にも、限界があると感じている。
- ・互いの実状を知ることから。
- ・放課後子ども教室、児童教室のコミュニケーションを持つようにする。
- ・私の地域では「放課後の子どもの居場所」というものがいくつもあって充実している。分散してしまい、ムダもある。どう整理していくのか。
- ・フォーラム。年1回ぐらい有って良いと思います。
- ・年度始めの打ち合わせの際、スケジュールの調整のみやっていますが、プランや方針について話しあうのは必要なのではないかと思いました。
- ・まずは何をしたいのかをわかりやすく伝えることだと思います。今日はせっかくの機会なのに、総合プランの説明がとてもわかりにくかったです。
- ・子ども教室と児童クラブと分けるのではなく、一つの大きなクラブとして運営していけばもっと地域教育を子どもにできる。
- ・市民への広報をすべき。
- ・教室と学童の住み分け、違いをハッキリした方がよい。
- ・行政、支援員、学校のお互いの理解、目的の共有が必要だと思いました。
- ・何か柱となるテーマを各校、各地域で設定してから行うことが大切だと思う。
- ・学校指導員、放課後子ども教室スタッフの温度差を縮めることが大切かと思います。
- ・主管の統一（コミュニケーション）、予算確保のための根拠
- ・市町村に対して今後も補助金が必要である。国からの補助金が無くなると財政局の理解が得られず、廃止の可能性が生じる。
- ・たての関係で楽しく遊べれば良いと思います。
- ・様々な立場での意見交換をする場と時間を持ちたいと思いました。
- ・異なる2つの流れを無理くり1つにしようとするところにまず問題があると思う。まずは現場をしっかりと見てほしい。
- ・まずは、場所の確保、人材の確保をしたいです。
- ・広報の手法を検討（費用対効果が絶大な地域学校協働活動）
- ・行政側の窓口も一本化されると活動しやすいのでは。
- ・2つの事業を連携と協働でなく、統合一つの組織で行うべきなのではないか？
- ・それぞれの子どもの性格を知り、安全に見守る。
- ・ALTの先生が、ちょうど放課後教室の時間に帰宅します。スタッフになってもらうことは可能なのか、声を掛けてもいいのか。（新曾小です）
- ・もっと背景を、事例を出して説明するとかあったほうがよい。
- ・たくさんの立場、業種の人意見を取り入れて進めていく。

- ・タイムスケジュール（外遊びの時間）を一緒にするなど、ルールを共通にするとよい。
- ・子どもが迷うことのないように、大人の意見、指導、指示は統一であるよう話し合う場を充分にもうけて頂きたい。
- ・協力できることをこれから検討する。
- ・まずは、PTA（子供の親）に情報を提供する事、この機会を増やすこと。
- ・よく理解し合う事は、話し合う事。
- ・コーディネーターの確保が必要なのでは？行政だけに行わせるのは手が回らないと現場の声をきくので。

※自由記述は主なものを一部抜粋し、文意を損なわない範囲で語句等の加筆修正を行っています。

4. 本日まで参加されてのご意見、ご感想等、ご自由にご記入ください。

- ・体育館での午後について。まずは始まって15分たったから、寒い時期なのだからこそ出入口を半分しめて下さい。（今回は35分後に一気に全部閉まった。）大きいストーブは前方にしかなく、後方はとても寒い。配慮が必要と思う。うしろにあるストーブを小さいのが2コ、もう少し人のいる所に近づけてほしい。大きいストーブと人は近い。小さいストーブなのに人と遠い。
- ・報告の時間、あと1分のお知らせ→あのような小さい紙では目立たない。”
- ・連携することが無かったので、今日の研修を機に新年度の取り組みをしたい。
- ・いろいろな立場の方の意見を聞いてよかったです。
- ・いろいろな課題は多いと思いますが連携は大切だと思いました。
- ・本校ではまだスタートする前のウォーミングアップの段階です。本日のフォーラムに参加して学んだことは、学校に持ち帰り、まずは職員に報告したいと思います。ありがとうございました。
- ・事例発表、ワークショップ、運営、どれをとってもすばらしかったです。遠方から参加して本当によかったです。
- ・平日仕事をしており、まさに放課後はかかわれない時間。どうすべきか親として悩ましいです。
- ・ありがとうございました。
- ・一体型の取り組みについて様々な事例、実績があることを感じました。
- ・会場が寒い、青森からきたのに、こんなに寒いなんて。
- ・AMのプログラムでは保護者が見学者となっており、協働体制になっていない。
- ・事例とワークショップがリンクしていない。
- ・会場が寒すぎて、フォーラムどころではない。”
- ・実施を、インフルエンザ（かぜ）の時期でないときにしてもらいたい。
- ・子どもと楽しくあそびたいという思いでひき受けたコーディネーターなので、そこを原点として、大人としてどう開催すべきかを、安全管理員の方たちともっと話しあい、楽しい子ども教室にしたいと思いました。
- ・様々な地域の立場の違った方々から意見を伺って勉強になりました。
- ・色々な総合プランの上辺を話していたが、本当の理由の「児童クラブに教育的要素も与える」ということをごまかしている。もっと現状をしっかりと見てから計画を立てるようにした方がいい。
- ・できることを見つけていくこと。一步前進を努めたい。
- ・教育の拡大が放課後の自由時間まで迫ってきたのかなと思う。
- ・こどもの現場目線での運用を考えるべき。何か問題が発生すると責任分担の問題となる。事前に全てをクリアしておくべき。
- ・休憩時間があればよかった。
- ・地域の子どもは地域で育てる。そのために町（地域）が一体となって、課題と目標を共有し、その達成のためにそれぞれの立場で何ができるかをアクションプランとして示して、同じベクトルで進める体制づくり

に努めたいと思います。

- ・とてもよい研修となりました。
- ・勉強になりました。ありがとうございました。
- ・非常に楽しかったです。勉強になりましたが、現場など様々な方と話す機会があると、事務局もやる気につながりやすい。
- ・グループワーク自体はとても良かったのですが、ファシリテーターの進行により、話し合いの時間が短かったのが残念だった。
- ・当市の方向性に間違いがないことを確認できて良かったです。(所沢市)
- ・日頃、活動していた内容を掘り下げて考える機会になりました。
- ・放課後教室スタッフをやっていて良かったと思いました。意見交換は楽しいですね。
- ・年に数回、このような機会があればと思います。
- ・ありがとうございました。
- ・大変勉強になりました。
- ・本日は大変為になる内容、ありがとうございました。
- ・いろいろな立場の方の意見を聞いたのでよかったです。
- ・情報交換の時間がもう少し欲しかったです。貴重な機会をありがとうございました。
- ・参加して勉強になりました。他市の話は参考になり、是非アイデアを取り入れたい。
- ・地域によって、実状が違うことがわかりました。
- ・ワークショップでの最初のスライド資料は手元にほしかった。
- ・子どもに接する事など、勉強になりました。
- ・行政の方のお話が分かりづらかった。
- ・他の市の方、立場の方と話ができて、とてもよかったです。
- ・ワークショップをもっと練り直したほうが良いと思います。
- ・文科省では全学年受け入れの方針ですが、教室が人数に対して足りないです。少人数教室なのに、児童クラブ1クラス45名とかいます。
- ・情報交換の場として、今まで知らなかった現場の実態を知る事ができた。
- ・自分に何ができるのか、考えながらすすんでいきたいと思います。
- ・ありがとうございました。
- ・多くの事例に触れる事が出来た。
- ・放課後子供教室と学童の課題を確認出来ました。常に中心に子供達を考え仕事をして行きたいと思いました。
- ・事例紹介に対して質疑の時間が欲しかった。
- ・それぞれの地域で運営方法や活動がかなりちがうことを知ることができました。子どもの視点に立って考えることを大切にしたいです。
- ・全く違う職の方たちと充実した話し合いができて良かったです。今後の自分の仕事に活かせるようにしたいと思います。ありがとうございました。
- ・地域学校協働推進フォーラムに参加していると、プラン説明を毎回聞く事となります。事例を充実していただけだとありがたいです。現場では運営方法や、人材確保の情報が必要です。
- ・コーディネーターの勤務内容等が知りたいです。時間、謝金等。”
- ・ありがとうございました。
- ・参加して良かったです。地域差を感じました。放課後子ども教室の運営も、一体型にも行き詰まっていた。事例も、グループの方達のお話も大変参考になりました。特に地域差の大きさにはショックを受けました。

- ・ワークショップでの意見交換の時間が足りなかった。もっと情報交換できる時間がほしかった。
- ・グループでのワークは青森県の方が一緒でした。色々、知らない事が多かった。
- ・とても勉強になりました。
- ・大変参考になりました。今後にかします。

※自由記述は主なものを一部抜粋し、文意を損なわない範囲で語句等の加筆修正を行っています。

地域学校協働活動推進フォーラム報告書

主催:文部科学省

企画:株式会社キャリアリンク

発行:2018年3月
